

瀬戸内・海の路

S E A R O A D 2 0 1 4

Vol.26

| | |
|------------------|---------|
| 巻頭言 | P.1 |
| 平成25年度総会 | P.2・3 |
| 平成25年度担当者会 | P.4・5 |
| 環境事業委員会活動 | P.6~8 |
| 魅力検討委員会活動 | P.9~11 |
| 情報発信委員会活動 | P.12 |
| 防災委員会活動 | P.13 |
| 先導的活動支援報告 | P.14~16 |
| 瀬戸内海クルーズ推進活動支援報告 | P.17~19 |
| 後援活動報告 | P.20 |
| 第7回瀬戸内海首長サミット | P.21・22 |



瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会

会員構成

大阪ブロック

大阪府 高石市
大阪市 泉南市
堺市 阪南市
岸和田市 忠岡町
泉大津市 田尻町
貝塚市 岬町
泉佐野市

徳島ブロック

徳島県 小松島市
徳島市 阿南市
鳴門市 松茂町

香川ブロック

香川県 三豊市
高松市 土庄町
丸亀市 小豆島町
坂出市 直島町
観音寺市 宇多津町
さぬき市 多度津町
東かがわ市

兵庫ブロック

兵庫県 相生市
神戸市 加古川市
姫路市 赤穂市
尼崎市 高砂市
明石市 南あわじ市
西宮市 淡路市
洲本市 たつの市
芦屋市 播磨町

愛媛ブロック

愛媛県 伊予市
松山市 四国中央市
今治市 西予市
宇和島市 上島町
八幡浜市 松前町
新居浜市 伊方町
西条市 愛南町
大洲市 由良町

和歌山ブロック

和歌山県 湯浅町
和歌山市 広川町
海南市 日高町
有田市 由良町

岡山ブロック

岡山県 笠岡市
岡山市 備前市
倉敷市 瀬戸内市
玉野市 浅口市

周防灘ブロック (山口・福岡・大分)

山口県 福岡県
下関市 北九州市
宇部市 芳田町
山口市 大分県
防府市 大分市
岩国市 別府市
光市 佐伯市
柳井市 中津市
周南市 真杵市
竹原市 江田島市
三原市 海田町
尾道市 坂町
福山市 大崎上島町

広島ブロック

広島県 大竹市
広島市 東広島市
吳市 廿日市市
竹原市 江田島市
三原市 海田町
尾道市 坂町
福山市 大崎上島町

国会員

近畿地方整備局 九州地方整備局 中国運輸局
中国地方整備局 近畿運輸局 四国運輸局
四国地方整備局 神戸運輸監理部 九州運輸局

航路情報提供Webサイト 「みなとナビせとうち」

<http://www2.uminet.jp/top/>



QRコードで携帯から簡単アクセス
<http://www2.uminet.jp/knavi.jsp?cd=i>

みなとナビ広島

<http://www2.uminet.jp/>

「みなとナビ Hiroshima」は広島港を発着するフェリー、旅客船の運航状況など、港を利用する方に役立つ情報を提供するWebサイトです。

みなとナビ三原・尾道

<http://www2.uminet.jp/mihara/>

「みなとナビ 三原・尾道」は三原港および尾道港を発着するフェリー、旅客船の運航状況など、港を利用する方に役立つ情報を提供するWebサイトです。

みなとナビ高松・宇野

<http://www2.uminet.jp/takamatsu/>

「みなとナビ 高松・宇野」は高松港および宇野港を発着するフェリー、旅客船の運航状況など、港を利用する方に役立つ情報を提供するWebサイトです。

協議会Webサイト「海の路」

<http://www.uminet.jp/>



瀬戸内・海の路

Vol.26

瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会

発行/瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会事務局

協議会Webサイト「海の路」<http://www.uminet.jp/>

みなとナビせとうち <http://www2.uminet.jp/top/>

卷頭言



瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会 会長
いりやま くにろう
大竹市長 入山 欣郎

歴代会長

| |
|----------------------------|
| 平成3年～平成6年 姫路市長 戸谷 松司 |
| 平成7年～平成10年 坂出市長 松浦 稔明 |
| 平成11年～平成14年 小松島市長 西川 政善 |
| 平成15年～平成17年 玉野市長 山根 敬則 |
| 平成17年～平成18年 玉野市長 黒田 晋 |
| 平成19年～平成20年 下関市長 江島 潔 |
| 平成20年 下関市長 中尾 友昭 |
| 平成21年～ 大竹市長 入山 欣郎 |

寄稿

会員の皆様におかれましては、平素より瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会活動にご尽力をいただき、厚く御礼申し上げます。

昨年5月、兵庫県姫路市にて開催いたしました瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会平成25年度総会には、会員である21首長をはじめ、近畿・中国・九州の瀬戸内沿岸各地域から、多くの担当者の皆様にご参加いただき誠にありがとうございました。

本総会では、平成24年度の事業・収支決算報告と平成25年度の事業計画・予算案及び平成25～26年度の役員改選などが議論され、海ネット協定の参加拡大、海ネットサポートーと連携した活動の推進などについて決議されました。

第7回瀬戸内海首長サミットでは、「瀬戸内・海の路の利用振興・防災ネットワーク機能の強化に向けて」をテーマとして、防災ネットワーク機能の強化を図りつつ、平時の利用振興や災害時の支援内容を実現するための協力体制等について、活発な議論が行われました。

平成24年3月に締結された「瀬戸内・海の路ネットワーク災害時相互応援に関する協定」については、当初28市町村で始まりましたが、平成26年に開催しました。

平成25年度総会



平成25年度 総会報告

【議事】



入山欣郎 大竹市長挨拶



大脇崇 国土交通省大臣官房技術参事官

いるクルーズ船歓迎イベント等についても支援を行っている事など様々な活動を通じて会員同士の更なる連携強化を図っていくことが重要であり、二層の活性化のためご理解とご協力をお願いしたい」との開会の挨拶をいただきました。

続いて、大脇崇国土交通省大臣官房技術参事官より、「瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会は平成3年5月にこの姫路市で設立されて以来20年を超える永きにわたりてさまざまな活動がされており、瀬戸内地域全体の振興と発展に取り組んできており、おられることが敬意を表したい。クルーズ船の航行あるいは寄港というのが最近非常に増加しております。今後も、平時は瀬戸内の海の路を通じた地域振興や魅力発信により、海の路ネットワークを活かして相互の応援が確実となるよう、より一層の連携を図りながら、瀬戸内地域全体の振興に取り組んでまいりたいと思いますので、皆様の益々のご理解ご協力をよろしくお願ひいたします。

平成25年5月31日 兵庫県姫路市



金澤和夫 兵庫県副知事

総会の開会にあたり、協議会会長である入山欣郎大竹市長より、「瀬戸内・海の路を通じた防災ネットワークの強化として、瀬戸内・海の路ネットワーク災害時相互応援に関する協定を締結し、当初28市町村で始まったのが、平成25年5月末で53の締結会員にまで拡大している事、海ネットサポートー提案事業について、官民が連携して瀬戸内の魅力を発信することを通じ、海の路を通じた地域振興を図ることを目的として、クルーズ等防災の視点を盛り込んだモニターツアーの実施会員に支援を行っている事、瀬戸内海クルーズ寄港地において実施して

3月28日付けで66市町村にまで締結会員が拡大しており、平成25年10月には本協定の応援手続きの検証、習熟並びに連絡体制の確立を図るべく44会員を含む57団体にご参加いただき、情報伝達訓練を実施するなど、本協定の実効性確認及び防災対策の推進を図る取り組みが着実に進められております。

また、本協議会の骨格事業として、これまで21回を数え、昨年も延べ4万7千人ものボランティアの方々にご参加いただきました海浜等の清掃活動「リフレッシュ瀬戸内」のほか、瀬戸内地域の交流・連携・地域振興など他の会員の模範となる先導的活動や瀬戸内海クルーズの推進のためのクルーズ船歓迎イベントへの支援など、瀬戸内地域全体の振興に繋がるような取組を、海ネットサポートーとの連携も活かしながら進めているところです。

今後も、平時は瀬戸内の海の路を通じた地域振興や魅力発信により、本協議会会員同士の絆を深め、災害時には平時に構築された有機的な連携を図りながら、瀬戸内地域全体の振興と発展に取り組んでまいりたいと思いますので、皆様の益々のご理解ご協力をよろしくお願ひいたします。

3月28日付けで66市町村にまで締結会員が拡大しており、平成25年10月には本協定の応援手続きの検証、習熟並びに連絡体制の確立を図るべく44会員を含む57団体にご参加いただき、情報伝達訓練を実施するなど、本協定の実効性確認及び防災対策の推進を図る取り組みが着実に進められております。

また、本協議会の骨格事業として、これまで21回を数え、昨年も延べ4万7千人ものボランティアの方々にご参加いただきました海浜等の清掃活動「リフレッシュ瀬戸内」のほか、瀬戸内地域の交流・連携・地域振興など他の会員の模範となる先導的活動や瀬戸内海クルーズの推進のためのクルーズ船歓迎イベントへの支援など、瀬戸内地域全体の振興に繋がるような取組を、海ネットサポートーとの連携も活かしながら進めているところです。

今後も、平時は瀬戸内の海の路を通じた地域振興や魅力発信により、本協議会会員同士の絆を深め、災害時には平時に構築された有機的な連携を図りながら、瀬戸内地域全体の振興と発展に取り組んでまいりたいと思いますので、皆様の益々のご理解ご協力をよろしくお願ひいたします。

れまことに如にして、入山協議会会長を務め閣僚者の皆様に厚く御礼を申し上げるとともに、全国からお越しの皆様方を姫路市を代表して心から歓迎いたします。姫路港は、平成21年4月に開港法による開港指定を受けてから50周年を迎える50周年記念事業として、多彩なイベントを繰り広げたところである。

れまことにご対して、入山協議会会長をおもと開催者の皆様に厚く御礼を申し上げるとともに、全国からお越しの皆様方を姫路市を代表して心から歓迎いたします。姫路港は、平成21年4月に開港法による開港指定を受けてから50周年を迎える50周年記念事業として、多彩なイベントを繰り広げたところである。

ために新たな観光客層へのアプローチを図り、従来の姫路の観光振興や経済の活性化につなげるとともに姫路市内外から訪れる人々に対する温かいおもてなしに取り組んでいく。」との歓迎の挨拶をいただきました。

A vertical photograph of Shigeo Nishida, a man in his late 60s or 70s with glasses and a white rose on his lapel, speaking into a microphone at a podium.

【第7回瀬戸内海首長サミット】



首長サミットの様子

平成25年度担当者会

平成25年10月28日(月)～29日(火)の2日間、大分県中津市において、瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会担当者会を開催しました。当日は約80名が参加し、今年度の活動報告や来年度の総会提案事項に向けた活動方針等について議論が行われました。

また、29日に行われました現地視察では、福沢諭吉旧居・記念館、中津城やダイハツ九州工場の視察を行いました。

卷之三

A portrait of Kōki Matsumoto, a middle-aged man with short dark hair, wearing a grey suit jacket over a white shirt. He is standing at a podium, speaking into a microphone. A name tag is visible on his lapel.

二
開會

平成25年10月28日(水) 大分県中津市

平成25年度事業報告、分科会(実行委員会)及び全体会

平成25年度の事業報告として、これまでの会員活動への支援の申請状況と実施済み事業の報告を行い、支援事業である「瀬戸内海クルーズ推進活動支援」、「瀬戸内・海の路利用振興事業」、「海ネットサポートー提案事業」、「防災対策推進活動支援」について、提案募集を行つてることと、平成26年度に向けた検討事項として先導的活動への支援について、より会員への支援につながるものとして支援事業内容の見直しを図ること、また、来年度の総会を愛媛県松山市にて開催し、担当者会については和歌山県湯浅町にて開催するので皆様の参加の程よろしくお願ひしたい、との説明が事務局よりありました。

引き続き分科会では、魅力検討委員会、環境事業委員会、情報発信委員会、防災委員会と4つの実行委員会に分かれての議論が行われました。

第2部の全体会では、各実行委員会での議論の内容報告、及び平成26年度の活動内容についての方向性が提示されました。瀬戸内海地域の振興、発展、協議会活動を推進していく上でも、各種支援事業について積極的な申請をお願いしたい、との説明が事務局よりありました。

実行委員会においても担当者から活発な意見や質問がなされ、大変有意義な担当者会となりました。なお、魅力検討委員会、環境事業委員会、情報発信委員会、防災委員会での各議論の内容は以下のとおりです。

分科会



魅力検討委員会の様子

■魅力検討委員会



日本語レッスン 3 詞の相対



瀬戸内海において既存の開発促進船路と合わせて東西に災害対応の支障^{しあざ}が計られる事が検討されております。よって、第7回瀬戸内海首長サミットのテーマを「瀬戸内・海の路の利用振興・防災ネットワーク機能の強化に向けて」と題し、瀬戸内・海の路の防災ネットワークに求めるもの、防災ネットワーク機能の強化を図りつつ、平時の利用振興や災害時の支援内容を実現するための協力体制に必要なものは何か等について、活発な議論が行われました。

翌6月1日(土)には、姫路港飾磨地区^{しかま}にオープンした「姫路みなとミュージアム」及び姫路城の視察を行いました。「姫路みなとミュージアム」は、「銀の馬車道」の終着点である姫路港の活性化のため、「海」「みなと」「銀の馬車道」をテーマとし、市民や観光客の交流拠点、周辺地域の振興を図る施設であり、ミュージアム内は、「みなと」と「海」エリア、「銀の馬車道エリア」、「飾磨エリア」に分かれ姫路港・日本ユネスコ協会連盟の「プロジェクト未来遺産」に登録された「銀の馬車道」の説明や馬車の模型の展示等を行っております。また、地域と密着した施設となつており、近畿地方整備局が登録認定する「姫路みなとオアシス」の基本施設として登録されております。

②については、海ネットWebサイト「海の路」において配信しているマリーナ・ビジターバース情報の充実に向けた取り組みとして、広島県が構築した「瀬戸内クルージングポータルサイト」との相互バナーリンクを行う予定について報告がありました。また、9月に実施した施設管理者へのマリーナ・ビジターバース情報に関するアンケートでは、回答の約半数は現状のままで良いとの評価でしたが、一方で改良の様々な要望もあり、アンケート結果を参考に今後随時改良を検討していくことについて報告がありました。

③については既存の地域活性化イベント等について把握するために9月に実施したイベント調査結果の報告と、新たな支援事業について議論がありました。イベント調査の結果、各地に魅力的で多様性に富む地域活性化イベントが多く、地域連携等により発展的な取り組みが期待できる一方、開催件数や参加者が多く、地域活性化イベントが多くの地域経済への波及効果が高い「瀬戸内ブランド価値の向上」や「自然環境や地域文化の保全」を目的としたイベントに対する海ネットの現行の事業制度を活用しづらい状況となっていました。また、現行の事業制度では、事前に支援事業の情報が各会員に提供されないため会員間の連携に繋がりにくいことや、各会員の所属する自治体における当初予算編成時に支援の受入予算が組めないことが課題となっていました。

これらを踏まえ、新たな支援制度についての議論の結果、魅力検討委員会の試行的事業とし、担当者会においてイベント企画コードを行い、翌年度の支援事業を決定する仕組みを作り、平成27年度からの支援開始を目指していくことが提案されました。なお、議論の中では、機動的に活用できる現行の事業制度は継続するべきといった意見や、コンペの評価方法や海ネットサポートの一の関わり方等について意見があり、詳細な支援制度の内容については、平成26年度幹事会までに検討していくことで了承されました。

環境事業委員会

「リフレッシュ瀬戸内」については、来年度も引き続き企業のCSR活動、NPOとの協働を継続・拡大し、タイムリーな宣伝活動を行うために、5月下旬には実施計画・ポスター・チラシを作成し、8月末迄には集約をすることとします。なお、「リフレッシュ瀬戸内」全体の結果を各会員のHP、広報誌などに掲載し、各会員個別の取り組みではなく、瀬戸内一帯の取り組みとして宣伝することで更なる活動の拡大に繋がるのではないかとの意見が出ました。

また、「海の健康診断」については、実施結果を見るとゴミの組成成分が判り、市民からの問い合わせに効果的であったなどの意見もあり、引き続き実施することとなりました。実施においては、更に活動の輪を広げるため、積極的に学校、子供会等への参加の呼びかけを行うこととともに、調査方法についても、データの継続性の観点から従前同様の手法を採用して行いますが、これまでのデータ整理の結果や会員からの声を参考に今後の調査内容について検討を行う必要がありますが確認されました。

最後に「リフレッシュ瀬戸内」と「海の健康診断」を今後も継続していくことで、環境保全啓発につなげていくことが了承されました。



情報発信委員会

環境事業委員会の様子

環境事業委員会活動

リフレッシュ瀬戸内 全体拠点地レポート

周防灘ブロック 大分県別府市

平成25年6月1日～8月31日の間、「受け継ごう、きれいで豊かな瀬戸の海」を合い言葉に21回目となる「リフレッシュ瀬戸内」を開催しました。今年度は瀬戸内海沿岸各地226箇所での開催となり、47,521人のボランティアの方々が参加し、313.85tのゴミを回収しました。

全体拠点地となった大分県別府市（スパビーチ・上人ヶ浜公園・関の江海岸・餅ヶ浜海浜公園）では、実施日の7月14日（日）にボランティアの方々2,326人が参加し、8.6tのゴミを回収しました。また、市HP（別府市行事カレンダー）、市広報誌（べっぷ四季のカレンダー・市報べっぷ7月号）に開催案内を掲載し、リフレッシュ瀬戸内の開催を広く一般にPR。また、当日は会場付近にのぼりを掲げ清掃活動を行ったことにより、地元新聞社の取材も受け、清掃活動の記事が掲載されました。

参加者からは「普段は綺麗に見えてもゴミが多い。」「暑い中大変だったが、街がきれいになることは良いことだ。」「ゴミの量・種類を知る良い機会となつた。」「継続して実施していく事が大事。」などの声が寄せられ、清掃活動の重要性が確認されたのではないかと感じております。

今後も、豊かな自然を受け継いでゆくため、この活動を継続していきました



清掃活動状況



設置されたのぼり、回収されたゴミ

平成25年度リフレッシュ瀬戸内実施結果

| 府 県 | ブロック拠点 | 実施箇所数 | 参加人数(人) | ゴミ収集量(t) | 府 県 | ブロック拠点 | 実施箇所数 | 参加人数(人) | ゴミ収集量(t) |
|------|--------|-------|---------|----------|--------------|--------|-------|---------|----------|
| 大阪府 | 大阪市 | 9 | 1,719 | 6.37 | 徳島県 | 阿南市 | 10 | 3,493 | 15.15 |
| 兵庫県 | 姫路市 | 20 | 6,862 | 25.72 | 愛媛県 | 伊予市 | 72 | 5,824 | 42.59 |
| 和歌山県 | 和歌山市 | 5 | 427 | 10.00 | 周防灘(山口県) | | 24 | 10,326 | 51.00 |
| 岡山県 | 笠岡市 | 10 | 3,243 | 13.47 | 周防灘(福岡県・大分県) | 姫島村 | 7 | 2,928 | 13.70 |
| 広島県 | 坂町 | 23 | 5,633 | 50.64 | | | | | |
| 香川県 | 坂出市 | 46 | 7,066 | 85.21 | 合 計 | — | 226 | 47,521 | 313.85 |

増やすため「SNSの活用」や「スマートフォンの普及に対応した情報発信」、「GoogleアナリティクスによるHP閲覧に関する分析」に取り組んでいくことが、その方向性として了承されました。
また、海ネットの概要を迅速に印刷できるようなページの創設や、海ネットサポーター規約等の情報の掲載も必要との意見も出されました。



情報発信委員会の様子

防災委員会

昨年度新たに設置された防災委員会では、「瀬戸内海の路ネットワーク災害時相互応援に関する協定（海ネット協定）」協定運営協議会と併せて分科会を開催し、海ネット協定の実効性の確保について討議が行われました。
今年度の活動として、迅速な応援に資するための共有可能な資機材・物資リストや連絡体制の確保のための担当者名簿の更新があり、定期的な情報更新が必要との意見がありました。
その後、海ネット協定締結後初めて実施した情報伝達訓練の実施報告があり、今後は、次回以降の参考とするため訓練参加者からの意見をとりまとめ、検証を行っていきたいとの発言がありました。
と、複数の会員が実施する海の路を通じた防災訓練に対する支援として、今年度に創設された「防災対策推進活動支援事業」への呼びかけを行うことを確認しました。

平成26年度の活動方針として、引き続き資機材・物資リスト、担当者名簿の更新や訓練等の活動を推進し、海ネット協定の実効性の確保を図ることを確認しました。会員からは、海ネット協定締結会員の拡大に向けて、近隣自治体への呼びかけを行っており、引き続き行っていきたいとの発言がありました。
また、本年5月に開催した総会での「第7回瀬戸内海首長サミット」において、国の海割協定への関与について発言がなされおり、今後、現在の海ネット協定のなかで、国としての役割やどのような支援が行えるのかを協定締結会員に対し、意見照会を行い検討することで了承されました。
翌日、10月29日（火）の現地視察では、万円札の肖像で有名な福沢諭吉が幼少期を過ぎた福沢諭吉旧居記念館、日本三大水城と言われる中津城及びダイハツ九州株式会社九州工場の視察を行いました。中津城は、水門から海水が入り干満で水が増減する水城であり、当時の面影を多く残しております。ダイハツ九州株式会社九州工場では、海上輸送に適した立地であり先進生産拠点の一つとして重要な役割を果たしており、中津港より直接欧州への輸出等の説明をいたしました。



中津城の視察

リフレッシュ瀬戸内 ブロック拠点地レポート

環境事業委員会では、「ゴミを捨てない」、「ゴミを捨てさせない」といったゴミ排出抑制につながる予防的な取り組みを推進させるために、平成14年度から瀬戸内海沿岸地域の美化活動「リフレッシュ瀬戸内」と連携して、国際ビーチクリーンアップキャンペーングを実施されていました。この手法を取り入れた「海の健康診断調査」(ゴミの組成調査)を実施しています。

これまでの継続的な調査により、ゴミの地域特性が明らかになってきており、瀬戸内海に住む人々のゴミに対する意識向上に役立っていくことを考えております。

今後も調査を継続していくことによって、瀬戸内海全体で共通するゴミ、各地域の特徴的なゴミを情報発信し、ゴミ排出抑制への啓発活動に役立て、美しい瀬戸内海を次の世代に継承していく取り組みに繋げていきます。

周防灘ブロック (山口・福岡・大分)

| | |
|------------|--|
| 岩国市(青木海岸) | (参加者からの意見) 調査の目的が明確になったことによって、地域住民の連帯感が生まれた。自然環境改善活動の意識が高まり伝播して広域活動となることを期待できる。 |
| 姫島村(みつけ海岸) | (参加者からの意見) 毎年同一箇所で調査しているため、漂着ゴミの推移が分かる点が良かった。例年に比べゴミの量が減った様に思う。 |

岡山ブロック

| | |
|-----------|---|
| 岡山市(田坪海岸) | (参加者からの意見) 釣り糸等の漁具等が多数みられた。ゴミの種類がわかったことが良かった。 |
| 玉野市(渋川海岸) | (参加者からの意見) 昨年度の海岸の状況と大きく異なり、ゴミや海藻が多くあった。同じ海岸、時期でも、異なることがあるとうことがわかった。 |

広島ブロック

| | |
|-----------|--|
| 竹原市(的場海岸) | (参加者からの意見) 県内においてもそれぞれの場所で漂着物等異なっていると思われる。特に本土、島ではゴミの量や種類も違うのではないか。 |
|-----------|--|

兵庫ブロック

| | |
|-------------|---|
| 西宮市(甲子園浜海岸) | (参加者からの意見) 毎年、海岸部の砂浜が減少してきており、今後、養浜を行わなければ調査が実施できなくなる可能性がある。清掃活動により、ゴミの量が少なくなっていると感じる。 |
|-------------|---|

愛媛ブロック

| | |
|-----------|---|
| 伊予市(森海岸) | |
| 伊予市(新川海岸) | |
| 伊予市(尾崎海岸) | (参加者からの意見) 各海岸のゴミの内容を調査・把握することで、市民より問い合わせがあった場合にお知らせできる。 |

香川ブロック

| | |
|------------|--|
| 坂出市(沙弥西の浜) | (参加者からの意見) 組成調査でゴミの種類を分析することで、これからゴミの削減のためにどういった対策を取れば良いのかの判断資料となるデータを得られて良かった。 |
|------------|--|

大阪ブロック

| | |
|------------|--|
| 大阪市(南港野鳥園) | (参加者からの意見) 前日企業の清掃活動がありゴミが少なかった。川の上流から流れてくる生活ゴミ等が目立ちました。年々ゴミは若干減っているようですが、まだゴミが存在している。より一層のゴミ捨てへの意識を持ついかなくてはならない。 |
|------------|--|

徳島ブロック

| | |
|------------|--|
| 阿南市(北の臨海岸) | (参加者からの意見) 普段ではあまり気づかないゴミの量、種類等がわかつた。リフレッシュ瀬戸内を実施している全ての海岸等で健康診断を実施して欲しい。 |
| 和歌山ブロック | 和歌山市(加太海岸) (参加者からの意見) 今回ゴミは少なかったが、木片や海藻多く見受けられた。捨てられたゴミの種類や量の変化がわかる。 |

| 大阪ブロック | 兵庫ブロック | 和歌山ブロック | 岡山ブロック | 広島ブロック |
|---------------|---------------|---------------|-------------------|---------------|
| 大阪市(南港野鳥園) | 西宮市(甲子園浜海岸) | 和歌山市(加太海岸) | 岡山市(田坪海岸) | 竹原市(的場海岸) |
| プラスチック類 84.9% | プラスチック類 82.2% | プラスチック類 60.7% | プラスチック類 46.2% | プラスチック類 62.0% |
| 発泡スチロール 9.1% | 金属 8.9% | ガラス類 17.9% | 複合素材他 43.3% | 複合素材他 19.7% |
| 紙・ガラス類 3.0% | 複合素材他 8.9% | 発泡スチロール 10.7% | ガラス類 7.7% | 金属 9.9% |
| ※3位同率 | | | | |
| 香川ブロック | 徳島ブロック | 愛媛ブロック | 周防灘ブロック(山口・福岡・大分) | |
| 坂出市(沙弥西の浜) | 阿南市(北の臨海岸) | 伊予市(森海岸) | 岩国市(青木海岸) | 姫島村(みつけ海岸) |
| プラスチック類 60.0% | プラスチック類 53.6% | プラスチック類 87.5% | プラスチック類 64.8% | プラスチック類 93.5% |
| 発泡スチロール 15.0% | プラスチック類 32.1% | 金属 10.7% | 金属 14.3% | 金属 2.8% |
| 複合素材他 10.0% | 複合素材他 14.3% | ガラス類 1.8% | ガラス類 6.1% | 紙 1.2% |

※「クリーンアップ全国事務局」の基準に基づいたアイテム別99分類ごとの組成について、各海岸ごとの上位(組成の多い方)から3位まで(個数%)で記載。

海の健康診断調査を実施しました。

岡山ブロック(笠岡市)



7月27日(土)、カブトガニ繁殖指定地内及び周辺海岸において1,065人(大人815人子供250人)が参加し、8.0tのゴミを回収しました。

(参加者からの意見)
「私自身ゴミを捨てないようにしたいと感じた。」「ペットボトルが多く、ゴミ袋が足りないくらいだった。」「ゴミが年々少くなっていますが、まだあります。ゴミを捨てないようにして欲しい。」「以前に比べるとどちらきれいになつたと思います。」「きれいになって気持ちよかったです。」「ゴミを回収して心がきれい!」「毎年ながら大変です。市民の方にお願い。美しい町(海岸)にご協力を!」「いつもゴミがあるので悲しくなります。でも、楽しくゴミ拾いをします。」

兵庫ブロック(姫路市)



6月30日(日)、姫路港飾磨埠頭周辺において300人(大人280人子供20人)が参加し、2.0tのゴミを回収しました。

(参加者からの意見)
「たくさんゴミが落ちていたが、わずかな時間の清掃でも目付くゴミがなくなったので、やりがいがあった。」「みんなの協働作業によって、海がきれいになつた。」「ビニール等のゴミが草にからまつて取にくかった。」「発砲スチロールのゴミが意外と多かった。」

大阪ブロック(大阪市)



6月15日(土)に大阪南港野鳥園において70人(大人65人子供5人)が参加し、0.8tのゴミを回収しました。

(参加者からの意見)
「あまりゴミは多くなかったが大阪湾のゴミが少しでも減ってよかったです。」「ビニール等のゴミが草にからまつて取にくかった。」「発砲スチロールのゴミが意外と多かった。」

広島ブロック(坂町)



7月7日(日)、坂町海岸全域・坂町海域において1,000人(大人700人子供300人)が参加し、11.7tのゴミを回収しました。

(参加者からの意見)
「タバコの箱や空き缶がたくさん落ちていることがわかりました。皆で掃除することはいい事だと思います。」「ゴミがたくさん落ちていることにびっくりしましたが、清掃後は気持ちいいことを知りました。また、海岸清掃に行きたいです。」「暑くて大変だったが、地域の方と一緒にしなさいとか胸が痛くなった。今回の様な清掃活動を通じてゴミが少くなれば、環境保護に繋がる。また、同時に個人のマナー向上にも繋がると感じた。」

香川ブロック(坂出市)



7月6日(土)、沙弥ナカンド浜、沙弥西の浜において500人が参加し、2.6tのゴミを回収しました。

(参加者からの意見)
「晴天でとても暑かったが、多くの人の参加により、海岸がきれいになつたのは気持ちが良かった。」「缶や紙くず、たばこの吸い殻などのゴミが多かった。美しい自然に囲まれている瀬戸内海でのゴミ捨てる現状を目当たりにし、環境汚染による生態系の変化から異常事態が発生したりしないかと胸が痛くなつた。今回の様な清掃活動を通じてゴミが少くなれば、環境保護に繋がる。また、同時に個人のマナー向上にも繋がると感じた。」

徳島ブロック(阿南市)



6月14日(金)15日(土)に北の臨海岸、7月7日(日)に今津海岸、7月9日(火)に出島海岸において773人(大人299人子供474人)が参加し、1.1tのゴミを回収しました。

(参加者からの意見)
「この3年間、雨天中止で参加できなかったが、今年は参加できて良かった。来年も参加したい。」「海がきれいでのしかった。」

愛媛ブロック(伊予市)



7月14日(日)、みつけ海岸において132人(大人49人子供83人)が参加し、1.0tのゴミを回収しました。

(参加者からの意見)
「今年は集中豪雨もなくゴミが少ないと感じました。」「昨年よりも少なくなった。海がきれいになつてもうれしい。」「例年掃除に参加しているが、年々ゴミが減っているように感じた。清掃後の海岸をみると気持ちが良いので、今後も積極的に参加し、海の美化に努めたい。」「毎年参加しているが、漂着物が主なゴミのようまだ海が汚れているなど実感させられた。これからもこの活動を続けていって欲しい。」

周防灘ブロック(姫島村)



7月27日(土)、みつけ海岸において132人(大人49人子供83人)が参加し、1.0tのゴミを回収しました。

(参加者からの意見)
「自分たちの活動で、地域の海岸がきれいになったので良かった。」「地域で働く一人として、毎年参加しています。海水浴客に喜ばれきれいな海を守れるよう頑張りたい。」「ウミガメの産卵があったときい、今以上にきれいな海岸にしたいと思いました。」

和歌山ブロック(和歌山市)



6月23日(日)、加太海岸において184人(大人14人子供10人)が参加し、2.0tのゴミを回収しました。

(参加者からの意見)
「ゴミをたくさん集められた。夏になつたら釣りに来たい。」「いい汗かけました。」「初めての参加だったが楽しめた。」

※全体拠点地レポートは前ページに掲載。



愛媛ブロック(伊予市)

7月14日(日)、伊予地区(旧伊予市)の海岸全において910人(大人707人子供203人)が参加し、10.0tのゴミを回収しました。

(参加者からの意見)
「今年は集中豪雨もなくゴミが少ないと感じました。」「昨年よりも少なくなった。海がきれいになつてもうれしい。」「例年掃除に参加しているが、年々ゴミが減っているように感じた。清掃後の海岸をみると気持ちが良いので、今後も積極的に参加し、海の美化に努めたい。」「毎年参加しているが、漂着物が主なゴミのようまだ海が汚れているなど実感させられた。これからもこの活動を続けていって欲しい。」

7月27日(土)、みつけ海岸において132人(大人49人子供83人)が参加し、1.0tのゴミを回収しました。

(参加者からの意見)
「自分たちの活動で、地域の海岸がきれいになったので良かった。」「地域で働く一人として、毎年参加しています。海水浴客に喜ばれきれいな海を守れるよう頑張りたい。」「ウミガメの産卵があったときい、今以上にきれいな海岸にしたいと思いました。」

6月23日(日)、加太海岸において184人(大人14人子供10人)が参加し、2.0tのゴミを回収しました。

(参加者からの意見)
「ゴミをたくさん集められた。夏になつたら釣りに来たい。」「いい汗かけました。」「初めての参加だったが楽しめた。」

魅力検討委員会活動

「瀬戸内・海の路利用振興事業」により、クルージングイベントを実施しました。

平成11年以前まで定期旅客船航路で結ばれていた深日港（大阪府岬町）と洲本港（兵庫県洲本市）間を結ぶクルージングイベントを、地域振興イベントの「深日港フェスティバル」において実施しました。

うしお観潮船「日本丸」（ジョイボート南淡路（株））をクルーズ船として利用し、延べ735人の地域住民の方々に参加いただきました。船内では、平成25年4月に淡路島で発生した地震の際に災害支援物資を本ルートで送ったことを紹介し、日頃からの相互交流や海路の重要性について理解していただいたうえ、防災に関するアンケートにもご協力いただきました。

今後も平常時の観光ルートと災害時の物資輸送ルートとしての活用について検討を加え、地域間交流による瀬戸内の魅力向上と「瀬戸内・海の路ネットワーク災害時相互応援に関する協定」の実効性の確認のため、同様の取り組みを継続していくこととしています。

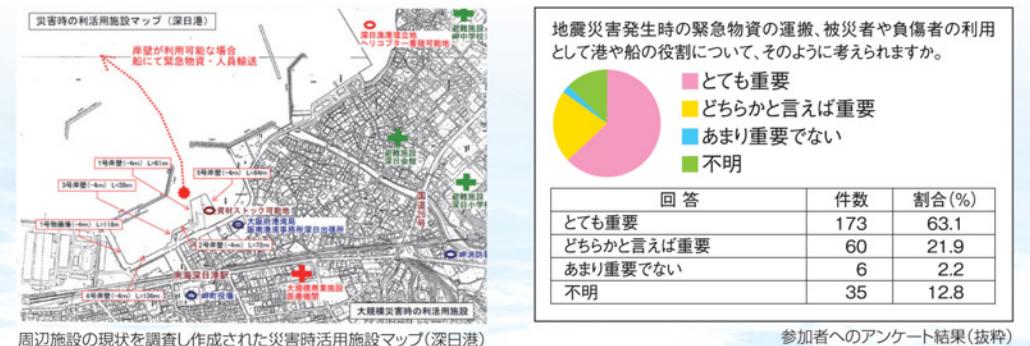
実施事業名：第2回深日港活性化イベント 深日港フェスティバル
実施主体名：岬町（大阪府）
実施時期：平成25年6月30日（日）

実施内容：うしお観潮船「日本丸」にて、大阪府岬町の深日港と淡路島にある兵庫県洲本市の洲本港を往復し、船上から大阪湾唯一の自然海浜である小島自然海浜や瀬戸内海国立公園の友ヶ島等の景観を楽しんでいただき、瀬戸内の魅力を肌で感じていただきました。
また、寄港先の洲本港では、地元観光協会の協力により阿波踊りや和太鼓の歓迎セレモニーを受け、淡路島の郷土料理でおもてなしを受けました。深日港へ向かう便には、洲本市の方々も乗船され、深日港到着後にイベントに参加いただき交際を深めました。

参加者数：淡路島帰りクルーズ 437名
大阪湾ミニクルーズ 437名



洲本港での阿波踊りのおもてなし
クルーズ船に乗り込む参加者
うしお観潮船「日本丸」



「海ネットサポート事業」により、官民連携による地域振興活動を実施しました。

平成23年度に制度化された「海ネットサポート」は、設立当初の55団体から73団体（平成26年1月時点）にまで拡大し、官民連携のみならず、近隣の会員や海ネットサポートとの広域連携を図りながら瀬戸内地域全体の地域振興活動に繋がっていくことが期待されています。

平成25年度には、「海ネットサポート提案事業」として、2件の事業を実施しました。

実施事業名：銀河「モーニングビュッフェクルーズ」
実施主体名：広島市、グランドプリンスホテル広島（海ネットサポート）
実施時期：平成25年4月28日（日）～29日（月）、5月4日（日）

実施内容：グランドプリンスホテル広島は、広島の財産である「瀬戸内海」という観光資源を活用した新事業による瀬戸内海の活性化と滞在型旅行促進を図つており、その環として、朝食を船上で楽しむ「モーニングビュッフェクルーズ」を実施しました。

銀河が着岸できる県営第二桟橋を出航し、船からでなければ見られない景色を朝食とともに楽しんでもらいながら、船内アナウンスによる地域関連情報等の学習や、「子ども船長サービス」として船長の制服を着用しての記念撮影や操舵室見学での船長への質問など盛りだくさんに実施し、参加者どなたにも楽しんできました。

また、アンケートを実施し、災害時においての桟橋の有効活用についてヒアリングを行うとともに、船内アナウンスによる「瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会」の活動についての紹介を行うことで、協議会の取り組みの一つである、平時に使われる観光船を活用したクルーズルートが災害時の物資等の支援ルートとして有効活用できるよう検討を進めていることを参加者にPRしました。



県営第二桟橋（乗船）

船長から話を聞く子どもたち



参加者数
450名（うち子供44名）※3日間合計

実施事業名：全国公募展「瀬戸内の魅力、フォト&メッセージ」100選
実施主体名：神戸市、相生市、姫路市、玉野市、尾道市、三原市、竹原市、吳市
坂町、広島市、岩国市、小松島市、宇多津町、今治市、八幡浜市

別府市、大分市、津久見市、
（つこひんし）

実施時期：平成25年10月1日(火)～平成26年3月16日(日)

実施内容：広域連携による瀬戸内のみなとの恒常的な賑わい創出と地域活性化を図ること

を目的とし、平成2年11月に結成された「瀬戸内みなどオーケンス連絡会議」において、「マリンボートツーリズムの振興」と「瀬戸内の魅力創出・情報発信」を目指すための活動として、瀬戸内の海・みなとまちを訪れるすべての来訪者を対象に、瀬戸内の魅力を満載した写真とメッセージ作品を公募しました。



国土交通省港湾局長賞 瀬戸内の夕陽 石川織(高松市)



瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会賞 瀬戸の朝霧 藤原敏明(三原市)

マリーナ・ビジターバース情報の
改良を行いました。

防災ネットワーク機能の強化を視野に入れたプレジャーボートのクルーズ振興のため、瀬戸内海のマリーナ・ビジターバース情報を元的に提供するシステムを構築するにあたり、平成24年度に、海ネットWebサイト「海の路」に掲載している既存のマリーナ・ビジターバース情報の大図なりューアルを行いました。

平成25年度は、トップページにおけるリスト表示機能の追加等により魅力的で利便性の高いシステムへの改良を図りつつ、施設管理者に対してもアンケート調査を実施し、有用性についての確認を行いました。

各会員地域における既存の地域活性化イベント等について実績及び予定についての整理を行い、従来より行われている先導的活動支援とは異なる新たな支援メニューの模索・検討を行いました。

性を秘めたイベントが数多く存在していることが確認出来ました。これらの調査結果や各会員から寄せられた声を活かしつつ、現行制度の改良や新たな支援事業について検討を進

新たな支援メニュー検討のためのイベント調査を行いました。

情報発信委員会活動

Webサイトのコンテンツ強化に向けての取組を行いました。

情報発信委員会では、平成24年度に実行委員会活動として新たに設置された「防災委員会」の活動や防災訓練に対する支援制度を紹介するページを作成しました。併せて、平成24年度に創設された魅力検討委員会の支援事業である「瀬戸内・海の路利用振興事業」と「海ネットサポート提案事業」の制度内容等の情報を追加しました。

また、掲載内容の更新やメールでのWebサイトの情報更新の協力依頼を行い、イベントニユース等の最新情報の掲載を促しました。

さらに、地域の食を紹介する「食のログリレー」を実施するとともに、平成25年に瀬戸内の魅力を世界へ発信する「国際芸術祭」が開催されたことから、海ネットとしてもこの活動を広報を通じて支援すべく、海ネットWebサイトトップページへ瀬戸内国際芸術祭のバーを新たに設置しました。



防災委員会の活動や支援制度を紹介するページの作成



海の路Webサイトアドレス <http://www.uminet.jp/>

防災委員会活動

情報伝達訓練を実施しました。

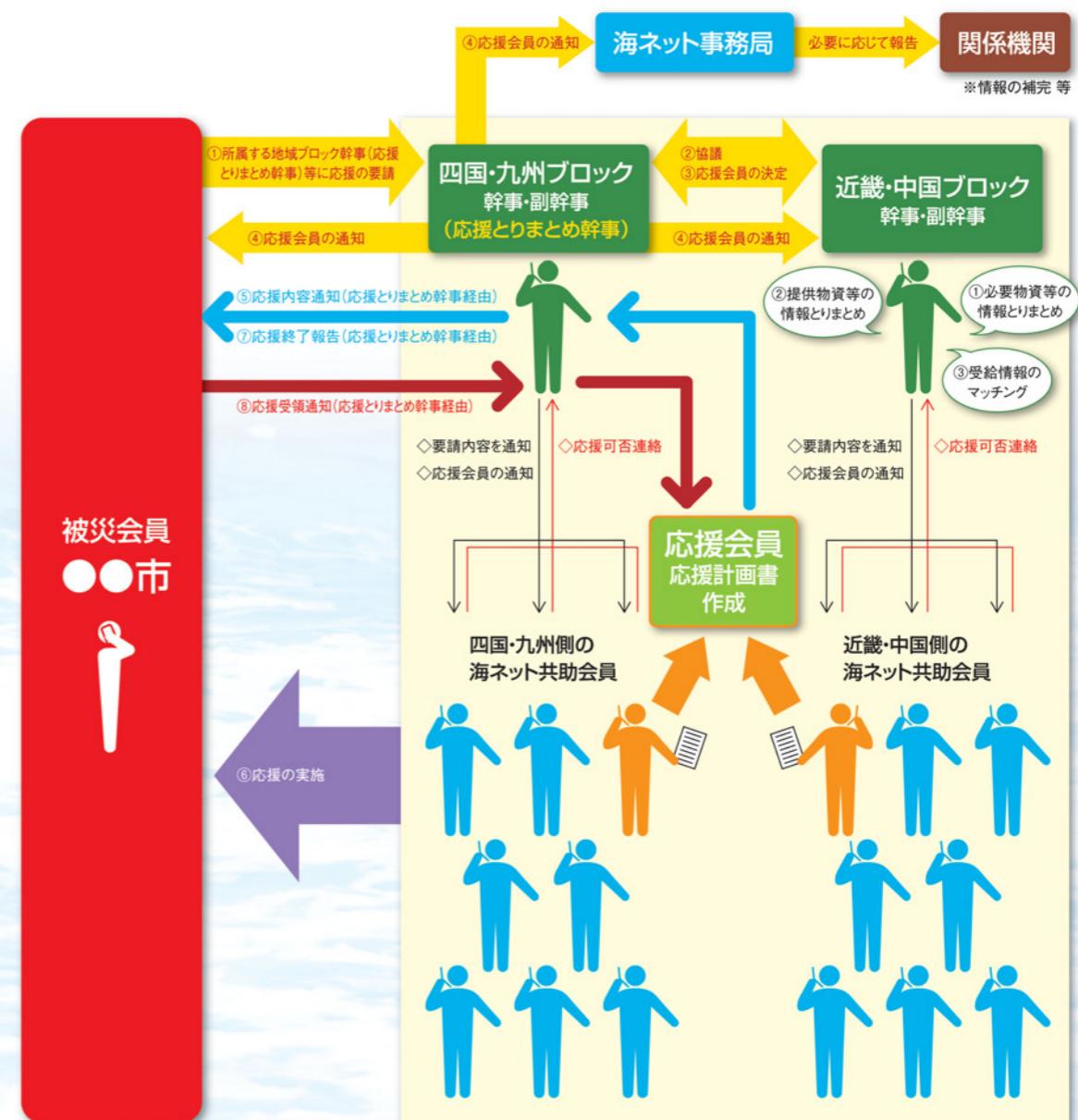
平成25年10月15日、「瀬戸内・海の路ネットワーク災害時相互応援に関する協定(海ネット協定)」の実効性を確保することを目的に、協定締結会員44市町村の参加のもと、情報伝達訓練を実施しました。

今回の訓練は、海ネット協定締結後初めての訓練であり、応援手続きの習熟を図るとともに手続きの検証を行ふことを重点項目といたしました。

訓練では、ファックスと電話連絡による情報伝達を行い、ファックスの転送により文字が不鮮明になったことや一時期に応援とりまとめ幹事への返信が集中するなどの不都合もありましたが、全体としては滞りなく伝達が行われました。

訓練終了後には、今後の訓練の参考とするため、訓練参加会員から課題等のご意見を頂きました。「訓練の実施により応援手続きの流れが理解できた。継続した訓練を望む」、「訓練中の会員への情報共有が必要」等の意見がありました。

当初予定していた実施日が大雨の影響で延期したことからも、今後は訓練の時期を見直すなど、頂いた意見を参考に情報伝達訓練を引き続き実施していくたいと考えています。



先導的活動支援報告 =ネットワーク活動=

瀬戸内地域の交流・連携、地域振興など他の会員の模範となる先導的な活動として、複数の会員が連携して取り組む活動(ネットワーク活動)や、会員が独自に実施したみなどを中心としたイベント・活動等(個別活動)への支援を行いました。

① 玉野市・岡山県



キッズポート体験乗船実験状況



たまの港フェスティバル全体の様子

平成25年5月18・19日、宇野港・築港商店街にて、玉野市の基本イメージである「海」、「港」、「船」をコンセプトに「たまの・港フェスティバル」が開催されました。会場では「日本丸」や「りゅうおう」が一般公開され多くの人が訪れました。また、11隻ものイベントクルージングを行し、体験操縦や、普段見る機会のない造船見学を行うことにより、子供から大人まで瀬戸内の魅力や船舶及び地域産業への理解を深められることができました。来訪者へのアンケート調査も実施し、今後の魅力・情報発信へつなげることもできました。

② 大分市・大分県



観わう参加者たち



海ネット防災バトル出展

平成25年8月24・25日、大分市の海の玄関である西大分のかんたん港園にて「食彩OITAかんたん港園食堂」が開催されました。開催地大分市だけでなく臨海部の企業、NPO法人、各協会、報道機関のほか地元自治会で構成された会員が地域密着で企画立案し、多くの子どもやその家族を呼び込むことができ、賑わいのある、情報発信力の高い催しとなりました。また、全国放送の24時間テレビの中継やTOSスマーカーナビの同時開催で、瀬戸内海の食の魅力を発信し、観光振興や地域交流の拡充に大きく寄与することができました。

平成25年9月27日、公共マリーナを有する5市の自治体からなる「中四国瀬戸内クルージングサミット」が開催されました。4回目となる今回は高松市で開催され、関係市との交流を深めました。当日は、女木島男木島・屋島沖を巡るクルーズ体験を実施し、芸術祭の会場である女木島での作品鑑賞や、島での食事や生活文化に触れてもらうことで、クルーズ商品としてのPRも行いました。また、各市長による公開シンポジウムでは5市を結ぶクルーズ航路についての企画提案を行った結果、来年度は実現に向けて検討をすることとなりました。

これらの取り組みを通して、瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会内外に積極的にPRし、地域経済の活性化と、人・文化の交流拡大に努めることができました。

③福山市・瀬戸内市・新居浜市・三豊市・高松市



中四国・瀬戸内クルージングサミットの様子



体験クルージング

①福山市



港で働く巨大マシーン



帆船ライトアップ

平成25年10月19日～22日、福山港が多くの市民に愛され親しみのある港として認知され、港湾の振興を図るために、帆船「海王丸」を招致して「ふくやま港まつり2013」が開催されました。参加型のステージイベントや、港で働く大型機械のデモンストレーション、20店舗を超える飲食ゾーンとしてグルメストリートなどを設け、多くの市民が集まりました。また、普段立ち入ることができないSOLAS区域内で開催することにより、地元住民等がより海に親しむ機会となり港湾振興への理解をよりいっそう深めてもらうことができました。

個別活動

②香川県



セミナー開催の様子

平成26年1月27日、「クルーズせとうち」セミナーが開催されました。瀬戸内海クルーズのさらなる振興を図るため、5港の共同により都内で行われました。セミナーでは各港関係者が出席し、グルメや観光など各港のそれぞれの魅力を紹介したほか、瀬戸内海クルーズを実施する船会社関係者による講演を行い、船会社や旅行代理店の方など参加者に対して瀬戸内海クルーズの商品造成を働きかけたとともに、瀬戸内海の魅力をより多くの方々に発信しました。

③広島市



シャトルクルーズ乗場



広島みなとフェスタ実施状況

平成26年3月22～23日、「広島・愛媛両県の島しょ部・沿岸部で練り広げられる「瀬戸内しまのわ2014」の春のキックオフイベントとして「広島みなとフェスタ」が広島港周辺及び似島で行われました。このイベントでは、会場をみなと全体に分散化することで広島港周辺の魅力を広く一般市民に発信することができたことが可能となり、島しょ部エリアでの開催で島の人と都市部の人との交流を促すこともできました。また、普段見ることのできないコンテナ施設の見学会を実施して広島港の重要性を広くPRし、県域や市町域を越えた広域観光PRで瀬戸内海の魅力をアピールしました。

④兵庫県・姫路市



ツア実施状況



地中美術館

平成25年12月8日、生野鉱山と直島との繋がりを知ることで瀬戸内に続く銀の馬車道の役割をPRするツアーを実施しました。姫路港（発着地）から、当時の機材や施設が残っている犬島を経由し、直島を巡るツアードラゴンによる講義、美術館、犬島「家プロジェクト」ツアーの見学を行い、今後更に瀬戸内の魅力を発信していくために、アンケートを行いました。

兵庫県内のツアーではなく、瀬戸内の繋がりを利用して複数県にまたがるツアーを実施することで瀬戸内の魅力を大きく発信することができました。

瀬戸内海クルーズ推進活動支援報告

瀬戸内地域の観光交流を図るため、寄港地または寄港地周辺の会員が行つたクルーズ船寄港地歓迎イベントや、積極的な誘致活動について支援を行いました。

クルーズ船寄港地歓迎イベント

① 兵庫県・姫路市

平成25年5月2日、ふじ丸屋久島クルーズ出港歓送行事が行われました。姫路市消防音楽隊による出港歓送のための演奏や姫路港管理事務所長のあいさつがあり、地元のゆるキャラ（セーラーはばたん、しろまるひめ、「コバ」とともに、旅行者の家族や関係者のみならず、一般市民など100名ほどの多数の市民の方が紙テープを使い見送りました。



④ 周防大島町

平成25年6月20日商船三井客船所属の「にっぽん丸」が「瀬戸内クルーズ（神戸－周防大島2泊3日）」で乗客250名を乗せて初寄港してイベントを行う予定でしたが、濃霧のため急遽岩国港に回航しました。このため、にっぽん丸船上ハレイ作り教室を開催することとなりました。



にっぽん丸

⑤ 下関市

下関市では、例年8月13日に「門海峡花火大会」を開催しており、この花火大会を観覧するため2隻のクルーズ船が下関港に寄港しました。この花火大会には客船乗客以外にも多くの観光客が来訪するため、客船寄港時に当地ゆるキャラや、伝統芸能「平家太鼓」の披露、よさこいグループによる入港歓迎演奏や、下関市役所吹奏楽団による出港時の演奏も行われました。



下関市テープによる見送り



下関市歓迎の様子

⑥ 岡山県・玉野市

平成25年10月5日、クルーズ客船「にっぽん丸」が「秋の対馬・濟州島クルーズ（宇野－対馬－濟州島－宇野）3泊4日」で、乗客約400名を乗せて宇野港から出港しました。大型客船の寄港は、宇野港宇野地区のぎわい創出と、県内の観光振興につながることから、出港時に出港セレモニーやテープ投げ等による見送りを実施しました。



にっぽん丸寄港



福山市歓迎の様子



福山市歓迎横断幕

⑦ 福山市

平成25年10月16日、客船「ぱしふいづくびいなす」が秋の日本一周探訪クルーズ（横浜－神戸－鞆の浦－上五島－熊本－出雲－苫小牧－大船渡9泊10日）で乗客約400名を乗せて福山市の鞆の浦沖（錨泊）に初寄港しました。桟橋付近では、地元子ども園の園児によるお迎えや、土産物デントの出店を行いました。本イベントは、地元関係者と連携して外航船を含めたクルーズ船の誘致活動の積極的な取り組みとなりました。



ゆるキャラ大集合



歓迎イベント

② 北九州市

平成25年5月21日、北九州市制50周年を記念し、客船「ぱしふいづくびいなす」が、門司港に6年ぶりに寄港し、市が市政だよりで募集した人を含む乗客約300人を乗せて濟州島に向けて出発しました。門司学園中学・高校の吹奏楽部員約100人が演奏し、地元のゆるキャラ「じーも」らキャラクター7体も集まり寄港を歓迎しました。出港時には市民らが小旗を振りて見送り、船出を華やかに見送りました。



三原市送迎セレモニー



三原市臨時ブースの設置

③ 三原市

平成25年5月29日、「ふじ丸」尾道糸崎港寄港歓迎行事が行われました。入港時には地元小学生による和太鼓演奏や、臨時飲食店設置等でおもてなしをしました。送別セレモニーでは、郷土芸能の三原やつさ踊りを披露しました。



記念品配布



にっぽん丸



テープ投げ



福山市歓迎横断幕

⑧ 小豆島町

平成25年11月4日、クルーズ客船「ばしふいづびいなす」が「秋の別府」で寄港しました。この寄港は地域のにぎわい創出と今後的小豆島への観光振興につながることから、地元の保育園児による鼓笛演奏や地元の方によるお出迎え、上陸者への記念品配布、オリーブの新漬の試食等でおもてなしをするなど、歓迎行事を行いました。



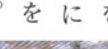
⑨ 広島県

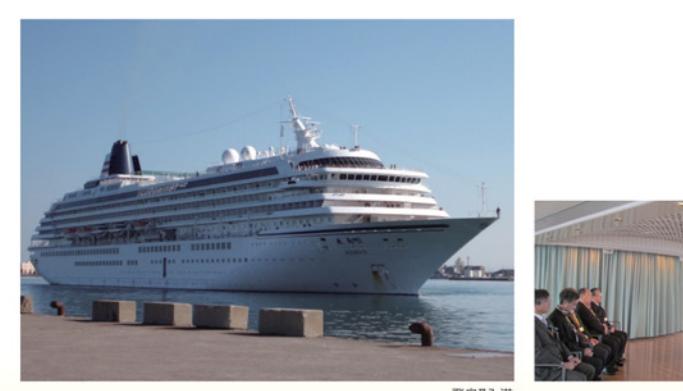
平成25年11月19日、客船「飛鳥II」が「紅葉の東京・鎌倉と安芸の宮島クルーズ4日間」で乗客約690名を乗せ、広島港に寄港しました。入港時にはエリザベト音楽大学の演奏があり、岸壁では地元名物のお好み焼きが乗客にふるまわれました。



⑩ 小松島市

平成26年1月7日、客船「飛鳥II」が「飛鳥IIで航く」「四国こんぴら」と霊峰「富士山」4日間チャータークルーズツアーにて小松島港へ寄港しました。あらかじめ市内物産パンフレットを送付し、船内展示してもらうことで特産品等についてのPRをすることができ、入港時には地元音楽隊による歓迎演奏を行い、乗船客に配布しました。





クルーズ船 誘致活動

瀬戸内海に港を持つ5港の管理者が「クルーズせとうち」として連携を図り、セミナー開催などの様々な誘致活動を実施してきました。今回、瀬戸内クルーズのさらなる振興を図るため、PR素材として5港による広域パンフレットの作成や、各港の観光名所等のポストカードを共同作成しました。平成26年1月に行われた船会社や旅行代理店を対象としたセミナーでは、今回作成したパンフレット及びポストカードを配布し瀬戸内海の魅力をPRし、クルーズ船寄港誘致を図りました。



後援活動報告

マーリングランフェスタ2013

日 時：平成25年4月13日（土）～14日（日）
場 所：広島観音マリーナ（広島市）
主 催：広島ボートショー実行委員会・NPO法人海の駅ネットワーク瀬戸内海連絡会

広島ポートショーやマリンフェスティバル、「海の駅」フェア等のイベントを合同開催し、海事思想の普及や舟艇産業の振興、安全なマリンレジャーの推進や「海の駅」の周知・利用拡大を、さまざまな催しを通して市民の方々に伝えることができました。

2 「ふじ丸」神戸発着ラストクルーズ
「さよならセレモニー」

日 時：平成25年5月27日（月）
場 所：神戸ポートターミナル停泊中「ふじ丸」船内
主 催：神戸市・神戸市客船説明協議会

平成元年に三菱重工業神戸造船所で建造された「ふじ丸」が、平成25年6月をもって引退を予定していたことから、神戸発着クルーズとしては最後となる「クルーズのゆたか俱楽部」による「瀬戸内海・島めぐりクルーズ」の出発に際してセレモニーを行いました。講演会や神戸市消防音楽隊による歓送演奏を行い、ふじ丸の最後の神戸発着クルーズを盛大に見送りました。

美しいみなとまちづくりシンポジウム
及び「私が好きなウォーターフロント」
フォトコンテスト

すが鞆の浦港へ初入港するのに合わせ、「おもてなし実地研修」を開催しました。研修では、寄港による経済効果や誘致のノウハウ、クルーズ客のもてなし方などについての理解を深めました。

3 濑戸内クルーズセミナー・おもてなし実地研修

日 時：平成25年10月15日（火）、10月16日（水）
場 所：福山市鞆公民館・鞆の浦県営桟橋・ばしふいづくびいなす船内・鞆町内
主 催：瀬戸内海観光連携推進会議

すが鞆の浦港へ初入港するのに合わせ、「おもてなし実地研修」を開催しました。研修では、寄港による経済効果や誘致のノウハウ、クルーズ客のもてなし方などについての理解を深めました。

4 美しいみなとまちづくり 及び「私が好きなウォーターフォトコンテスト」

日 時：平成25年11月28日(木)(シンボジウム)
平成25年9月4日(水)～11月28日(木)(フォトコンテスト)
場 所：KKRホテル広島(広島市)

『山紫水明』をテーマによりよい港づくり、海づくりを進めるためシンポジウムを開催しました。パネルディスカッションでは、パネリストそれぞれの瀬戸内海、美しい港、海への思いが伝わる熱氣溢れる討論会となりました。フォトコンテストにおいては120あまりの作品応募があり、24作品が優秀作品に選ばれました。受賞者はシンボジウム会場で表彰を受け、作品は会場で展示されました。



第7回 瀬戸内海首長サミット

「瀬戸内・海の路の利用振興・防災ネットワーク機能の強化に向けて」

平成25年5月31日 兵庫県姫路市



海田町長
山岡 寛次

町や市や県はもちろん自衛隊や警察、消防がタイアップしなければ様々な危機に対応できない。自衛隊においても陸だけではなく海での連携プレーをとっていただきたい。また、県や国を通じても、海の路への取り組みをお願いしたい。



坂町長
吉田 隆行

坂町のような小さな町が物資や人との支援をするにあたり、大きな自治体への支援には限界がある。小さい町は同じく小さい自治体と協力応援をするというような協議を行うことが誠意ある賢明な応援態勢につながる。



吳市長
小村 和年

当市には災害を想定し相当量の備蓄や消防職員も備えており、災害発生時すぐにでも派遣できる状態にある。しかし、いつどこへどのように派遣すべきか判断する司令塔がはっきりしていない。国交省整備局にコーディネートをして頂きたいと思っている。



玉野市長
黒田 晋

公共交通として海の路の担う役割は大きい。芸術祭を初め瀬戸内の島々が注目される中、防災ネットワーク機能強化も重要であるが海上輸送の重要性を国に認めて貰えるよう、海ネットを通じて発信していかたい。



姫路市長
石見 利勝

南海トラフ地震などの大規模災害が発生した際、海路による支援が重要な役割を果たす。平時からの情報交換や役割分担、災害発生時に被災状況や物資要請などの情報を迅速かつ確実に共有することが重要なので各関係機関の皆様との連携を緊密にしていかたい。



洲本市長
竹内 通弘

4月に発生した地震で海路確保の重要性を感じた。この海のネットワークでの海路は、緊急輸送を担う重要な機能を有すると思うので、耐震の岸壁やフェリー岸壁の整備を進めていかたい。



播磨町長
清水 ひろ子

震災があった場合、陸路寸断時も空路より海路の方がより大量の救援物資を輸送可能であり、がれき処理も海路の方が協力体制をとりやすいのではないか。当町は臨海部に60社以上の企業が操業しているので、企業ともさらに関連連携をとり防災対策を拡充していかたいと思う。



高石市長
阪口 伸六

護岸強化など企業の皆様の力も活用し、しっかりと体制をつくり、発災時の船舶等の海上輸送手段の確立を国土交通省の皆様で検討いただき、協議して情報共有をしながら備えあれば憂いなしの体制をつくりたいと思う。



泉大津市長
伊藤 晴彦

防災ネットワークを結ぶだけではなく、マンパワーが重要。職員の交流や顔の見える関係づくりをしていくべき。災害だけでなく、特産物のPRなど産業振興をしたり、普段の交流に重点を置いて進めていきたい。



貝塚市長
藤原 龍男

各市町村の物資のストックボリュームや受け入れのキャパシティなどの情報を交換することが必要。そのために、担当者レベルの情報交換が年に何度か必要なのではないか。

●瀬戸内海首長サミット参加市町村



江田島市長
田中 達美

大災害が起きた際、どの町がどこをどういう風に応援に行けるかということを整理しなければ、非常時にうまくいかない恐れがある。このネットワークを、実行力を伴い、素早く行動できる組織・機能にしていただきたい。



周防大島町長
椎木 巧

瀬戸内海は広いので区域を切って連携していくべきではないか。また、瀬戸内海の平時の航路利用振興において、クルーズの文化が根づき地域振興に繋がっていけばと思っている。



下関市長
中尾 友昭

下関は津波・地震の災害リスクが少ない地域であり、九州や日本海側にも近く、更には海外からの支援も受けやすい位置にある。このような特徴を活かし、民間と連携を図っていかたい。また、平時から担当者同士の顔が見える仕組みづくりや、外國に負けないよう、観光分野・クルーズ誘致における連携の研究も必要と感じている。



中津市長
新貝 正勝

中津港は、ダイハツ九州が来て以来、非常に活発な荷動きがあり、大型船舶が月に70隻以上訪れており、重点港湾にも指定されている。今後は、単に港湾運航だけでなく、緊急防災または、観光のクルージングにも自を向いていかなければと思っている。これ以上船が減らないよう航路支援をお願いしたい。



八幡浜市長
大城 一郎

南海トラフ巨大地震が発生した場合、町全体が被災し物資や支援の受け入れができない恐れがあり、現在橋樋の耐震化の検討を進めている。東九州自動車道の全通も間近となり、産業や観光の観点から航路を含めた第二国土軸を提唱している。



上島町長
上村 俊之

当町の弓削商船高校には機動力の高い船がある。また、南海トラフ巨大地震時には航路運用を町の管理下に置ける協定を民間フェリー会社と締結している。これらを活用して、災害時の広域支援にも協力したいと思っている。これ以上船が減らないよう航路支援をお願いしたい。



小豆島町長
塩田 幸雄

小豆島のような島々は航路がなければ衰退してしまう。航路の振興は絶対不可欠。道路法で道路として定義されている航路は、道路と同じく必要な社会資本であるにも関わらず、公費の投入が実現しない。政策の転換が必要である。



東かがわ市長
藤井 秀城

大規模地震による広範囲な影響が予測される中で、目の前の海の活用が非常に重要。海上輸送においても、ハード面だけでなく訓練や警戒態勢などソフト面の強化も必要。四国の港湾における地震・津波対策アクションプログラムを着実に実行していきたい。



四国地方整備局港湾空港部長
東島 義郎

当町は南海トラフ地震の発生後、津波により町全体の水没が予想されるので、避難住民の受け入れ場所の確保が難しいと思われる。このネットワークを利用し各地域の港湾施設強化をし、重大な浸水区域を有する地域の支援をお願いしたい。



由良町長
畠中 雅央

当町は南海トラフ地震の発生後、津波により町全体の水没が予想されるので、避難住民の受け入れ場所の確保が難しいと思われる。このネットワークを利用し各地域の港湾施設強化をし、重大な浸水区域を有する地域の支援をお願いしたい。